

# 2024年度 学校評価

## I 経営の重点にかかわること 評価段階

(A:よくできている B:できている C:あまりできていない D:まったくできていない)

学校評価委員長

松下秀子

1 園教育・保育目標: やさしく・かしく・たくましい子	自己評価
2 重点目標 ・仲間の中で成長し仲間を大切に する子 ・丈夫な体を持つ子	A

\*園の教育目標を理解し目指す幼児の姿をイメージして、保育の計画を立てる  
\*子どもの発達や生活を見通して環境設定をしている  
\*子どもの気持ちに寄り添い、その子の主体性を尊重する保育ができる  
\*子ども一人一人をよく観察し子どもの思いやサインに耳を傾け、受け止めて保育している

・子どもの思いを受け止める 子どもの目線になって関わるよう心掛けている  
・0歳児はしぐさ・表情・喃語などからのサインを読みとって受け止め丁寧に保育した  
・1歳児は個々の表れ・発達が幅広く一人ひとり受け止めて保育した  
・保育の見通しを持ち、個々に合わせ保育した ・外遊びを中心に保育計画を立て保育した  
・子どもの表れを担任同士で共有し、子どもと信頼関係を作りながら保育した  
・子どもの主体性を尊重してきたが難しいこともある ・子どもが喜んで遊ぶ環境を作った  
・子ども気付きを大切に、先回りの保育をしないようにしている

園関係者評価委員から	
評価	・今、学校では不登校の子どもが増えています。友だちの中で居場所や人間関係を大事に保育して欲しい ・わらべの建学の精神を基に基本目標を確立できています ・子どもに寄り添い言葉がけや必要な対応をしていると思う ・リュックの日の活動は体力が付きたくましくなると思う
A	・常に子どもに寄り添い、個々の主体性を尊重した保育ができている ・個々の思いやみんなの思いに対応してくれている ・1クラスであるのでクラスの団結や友だちとの仲間意識が強くなると思う ・四季を感じる遊びを取り入れることで親子の会話が弾む ・裸足の保育・リュックの日でたくさん歩くことが「丈夫な体を持つ子」につながっている

## II 各領域にかかわること

大項目	中項目	評価指標	自己評価
1 こども園における教育及び保育	0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・一人一人の発達や経験を把握し理解した上でわくわくしながら園生活が過ごせるよう援助する ・スキンシップを取り、子どもに寄り添い、安心して穏やかな気持ちで生活できるよう援助し、五感を通しやってみたくと思うような経験を広げていける環境を用意する	A
	1日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 環境を通して行う教育及び保育	・乳児はスキンシップが大事 寄り添う保育をしてきた ・乳児は愛情をこめ抱きしめて気持ちを穏やかにしてきた ・2歳児では言葉の発達を捉え、思いを聞いてやれるように保育した ・幼児もスキンシップが大事で一人ひとりに接してきた。 ・集団生活が苦手な子の保育環境は難しい ・乳児は家庭との連携が大事。安心できる環境を作り、笑顔で保育した ・保育者も子どももワクワクするような保育に取り組んだ ・朝の子どもの受け入れ時、笑顔で接することを心掛けた ・「後でね」「待っててね」など言ってしまう事もあるり、気をつけながら保育した ・子どもが夢中になるものを見つけて保育していきたい ・成長を感じた時は大いに褒めたり、次につながるように声掛け等している	
2 安全管理・指導	事故防止 災害対策	災害・不審者・交通安全など様々な状況を想定し、園児に安全行動を身に着けさせる	A
		・安全研修に参加し子どもの安全面を守るよう心掛けた ・安全研修で得たことを教職員と共有してきた ・乳児は保育者が連携をとり、声掛けしながら保育した ・年齢に合わせた防災訓練に取り組んだ ・園と家庭との連携が必要 ・特に園外保育や散歩時は危険がないよう子どもの安全を確保している ・園外保育や散歩時は事前に周囲や公園など確認していく必要がある ・水遊び時の安全を学んだり、実践していった ・子どもが不安にならないよう訓練に取り組んだ	

園関係者評価委員から	
評価	・ジェンダー平等・子どもの人格を尊重することを意識して保育して欲しい ・個々の発達に応じた保育ができていると思います ・子ども思いや想像を膨らませやる気にする保育をにしている
A	・季節感や発見をサポートする保育をしている ・毎朝、職員が子どもを受け入れ 挨拶している ・先生たちが子どもを一人ひとりを知り声掛けをしてくれる ・乳児の先生は子どもの目線で楽しそうに声掛けしてくれている ・掲示板や壁の装飾に季節感や行事を感じさせてくれる ・新しいことする時や頑張っている子に寄り添う励まし見守ってくれる ・行事ごと子どもが「やってみたい」という気持ちを大切にしていた
園関係者評価委員から	
評価	・防災、防犯、交通安全は日常的に取り組む必要があります 地域との連携や協力が重要です ・園外保育では3人体制で安全に活動できるよう配慮されている ・避難訓練は子どもに色々な体験をさせてくれて身に付くよう工夫してくれている ・怪我等、保護者に報告してくれる ・普段の生活で子どもから園の訓練が活きていると感じる
A	

3 保健管理・指導	健康教育の充実	基本的生活習慣が身につく健康に過ごそうとする	B	園関係者評価委員会から	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の発生時は保護者に伝え、園でも家庭でも手洗い・うがい・消毒をしていった</li> <li>・排泄・食事・着替えなど生活のリズムや個々に合わせ声掛けした</li> <li>・特に乳児はよく遊び、よく食べてぐっすり眠れるよう環境を整え穏やかに過ごせるよう保育した</li> <li>・毎日の繰り返しの中で身に付くよう保育している</li> <li>・2歳児では絵本を見ながら手洗いやバイ菌のことを知らせ、手洗いを習慣付けて行った</li> <li>・幼児は子どもに任せるだけでなく保育者の見取りも必要である</li> <li>・看護師の立場で保育者に相談を受けるので、食物アレルギー・発達障害の知識を増やしていきたい</li> </ul>		評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣は家庭との連携、協力が大事です</li> <li>・トイレ手洗いなど習慣が付くよう声掛けをしてくれている</li> <li>・給食も苦手な食材も少しずつ食べられるように声掛けをしてくれている</li> </ul>
4 特別支援教育	(1) 支援体制づくりの推進	個々の状況に合わせて支援計画を立て、全職員がかかわりを持ち援助しようとしている	B	園関係者評価委員会から	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚から伝わるようにボードやイラストを用意した</li> <li>・支援の必要な子が増えているのでどう保育を進めて行くか考えていきたい</li> <li>・専門機関に相談したり保護者への対応を考えていきたい</li> <li>・支援の必要な子のいるクラスだけでなく全体の問題として共通理解をしてきた</li> <li>・子どもの体調の異変など報告書や週案会議で伝えて共有している</li> <li>・今後も具体的な援助の仕方や成果を共有していきたい</li> </ul>		評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に合わせた支援体制と保護者理解や専門機関との連携を取り職員で共通理解をして欲しい</li> <li>・支援の必要な子どもが増えていると思う。支援体制を考えてくれている</li> <li>・クラスの子もたち同士でサポートするようになってきた</li> </ul>
5 保育理解	(1) わらべの保育を広報	日常の保育や園行事について手紙、パネル、写真などを利用して、保護者に説明や協力事項を伝え職員間で連携して教育保育を進めている	A	園関係者評価委員会から	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数担任でお互いの思いを共有して保育している</li> <li>・毎週のクラス便りや園便りで子どもの様子を保護者に伝えている</li> </ul>		評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園全体、保育者も子どもも職員も一緒になってわらべの保育を守ってほしい</li> <li>・わらべの保育内容をホームページでも公表して欲しい</li> <li>・毎週発行のクラス便りは分かり易く温かく、子ども活動を丁寧に伝えてくれている</li> <li>・園便り、クラス便りで子どもの様子が伝わる</li> <li>・子どもの日常の写真を多くとってくれて配布してくれるので様子がよくわかる</li> </ul>
6 研修	(1) 研修体制の充実	「わらべ独自の保育」どんな遊び・環境・子どもの成長への手立て具体的な共通理解を進めているか	B	園関係者評価委員会から	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の先生を講師に迎え、テーマに沿って研修してわらべの保育を共通理解してきた</li> <li>・今後もオンライン研修など、時間を作って保育を学ぶ場を作っていくたい</li> <li>・園にとっていま必要なことの研修をしてきた</li> <li>・研修しても共通理解が難しいこともある</li> <li>・環境の変化・子どもの変化等で保育を考え直すこともある</li> </ul>		評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間をとるのが大変だと思いますが保育の共通理解を得るための研修は大事です</li> <li>・先生たちは業務が忙しく大変であると思うが研修等で保育を共有している</li> </ul>
7 家庭との連携・協力	(1) 家庭教育への支援機能の充実	子どもの発達や活動の様子を降園時や保護者面接・懇談会で伝えたりお便り・ボードなどで積極的に知らせている	A	園関係者評価委員会から	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園時間に保護者と直接話をしたり相談にのったりできるよう心掛けた</li> <li>・乳児クラスでは連絡ノートで子どもの表れを伝えている</li> <li>・ホワイトボードに記入したり、ノートで伝えながら保護者に様子を伝えている</li> <li>・本日の献立を写真掲示したことで、親子の会話が広がっている</li> <li>・懇談会で様子を伝えたり写真を見てもらったり成長を伝えている</li> </ul>		評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に保護者と連絡を取りあうように努力して欲しい</li> <li>・懇談会等で写真掲示もしてくれて分かり易い</li> <li>・子どもの相談にも時間をとってくれ話ができる</li> <li>・毎日の献立が写真で掲示されているので分かり易く子どもとの会話につながる</li> </ul>

8 近隣の園や 小学校との 連携	近隣の園との 連携 小学校との連携 を図る	近隣の園や小中学校との連携を図り、交流、情報交換を進める	B	園関係者評価委員会から	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携園の子どもたちにもわらべランドや園行事で交流して情報交換していきたい</li> <li>・お散歩中に出会う他の保育園の方たちと挨拶を交わしている</li> <li>・散歩などで地域の方々に見守られていることに気づき、感謝している</li> <li>・服織小学校に訪問し学校の様子を子どもが知る事ができた ・小学校の先生と話ができた</li> </ul>		評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にある他機関との連携・情報交換を積極的に取り組んでほしい</li> <li>・お散歩等で地域の方から暖かく見守られていると思う</li> <li>・小学校見学があり子どももイメージでき、小学生との交流もできていた</li> </ul>
9 地域との 連携	信頼される園 づくりの推進 地域の方との 交流を図る	地域住民や施設等とのかかわりを大切にしながら、園だけではできない体験をする機会を持つようにする	A	園関係者評価委員会から	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべランドで地域の参加者と交流できている</li> <li>・S型デイサービスに参加し高齢者と関わりを持っている</li> <li>・地域の方の畑でみかん狩りや芋ほりをさせて頂いている ありがたい思いです</li> <li>・散歩で山崎消防署に行き、消防車や救急車に乗せてもらう体験ができた</li> <li>・今年は富士山交響楽団・リサイクル協会の方々と音楽鑑賞やごみ問題の劇表現を鑑賞し体験できた ・わらべランドの内容も考えていきたい</li> </ul>		評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への広報活動をしていくことは防犯や園理解につながると思います</li> <li>・地域を大切にすることで活動の場が増え見守られている</li> <li>・S型デイサービスに参加し高齢者と交流できたことは貴重な体験だと思う</li> <li>・家庭では体験できないことを体験し思い出とともに知識につながると思う</li> <li>・地域の方のご厚意で芋ほりや玉ねぎの収穫、みかん狩り等させて頂き家庭ではできない体験ができ感謝している</li> </ul>

園から 経営のまとめ(成果と課題)

1 園から経営のまとめ(成果と課題)

- \*今年度は猛暑で5月から10月まで熱中症アラートが頻繁に発令され戸外活動が思うようにできなかった
- \*園外保育も猛暑期間はなるべく避けて10月後半から出かけるようになった。歩く力、道路の歩き方を確認しながら安全面に気を使いながら実施した。公園や土手、河川敷に出かけた 園バスを使用しての園外保育も行った
- \*幼児の遠足は大型バスを使用し三保海洋博物館に出かけ、魚や海を見たりすることできた
- \*保育において活動や行事など保護者や地域の方に参加してもらいながら、子どもが生き生きできる活動に取り組んだ
- 年長児は今年も園でのお泊り会を行ったり最後の園生活を、いろいろな体験をするようにした
- \*保護者との交流や懇談会・参観など実施するようになった。いろいろな工夫をしていくことを考えてやってきた
- \*乳児の保育では保育教諭の数を増やし保護者が安心して預けられるよう配慮した
- \*食育活動を重視し畑仕事、野菜の栽培、収穫、クッキングなど取り組んだが猛暑や雨不足で収穫はあまりできなかった
- \*地域の方からみかん狩りやイモ類の収穫に招いていただき園児にとって嬉しい体験ができた

2 園関係者評価の意見を受けて(改善策)

- \*子どもたちの成長に合わせた保育や環境設定を考えていきたい
- \*園外保育・お散歩など安全面を考慮し実施していきたい
- \*気になる子の対応を園全体で共有していく
- \*0歳～卒園までの6年間の一貫した保育の長期計画を立てていく \*食育計画を立てていく(栽培・給食献立等含め)
- \*子どもの人権を尊重し一人ひとりに寄り添った保育の徹底をしていく

園関係者評価委員会まとめ

- \*先生たちが子どもに寄り添い話を聞いてくれたり意見を取り入れ保育を組み立ててくれたことが良い
- \*子どもたちの笑顔と先生方の笑顔で保育の楽しさが伝わりました
- \*入園の際、見学してみて、先生方の笑顔や対応が優しくてここなら安心と入園を決めた
- ・他園に比べ先生の数が多く、わらべ幼稚園の特色の1つである週1回のリュックの日(園外保育)が安心して実行できていると思います
- 足腰を鍛える良い取り組みだと思います
- \*どろんこや水遊び、砂場遊び・土手滑りなど子どもがたくさん経験できて良い
- \*子どもたちが素直で明るく思います
- \*この地域だけでなくわらべの良さを知ってもらう為ホームページなど活用していくことが良い
- \*裸足の保育が良い





